

シリーズランキング5位、開幕戦と最終戦で2度の優勝を飾るもポイントを累積できず

昨年のシリーズ2位という結果を受け、「今年こそは」と誰もが優勝争いを期待した「スーパーGT2015シリーズ」。その期待に応え、開幕戦優勝という最高のスタートを切った「Keeper TOM'S RC F」。しかし、この勝利が重量ハンディとして最後まで響き、最後は5位で閉幕。それでも最終戦を再び優勝で飾るなど、最後に意地を見せてくれた。ファンの願いはただひとつ、「この悔しさを糧に、来年こそチャンピオン」。



前半戦

2年連続で開幕戦優勝！シリーズ制覇に向け視界良好！

昨年に続き、開幕戦を勝利で飾った「Keeper TOM'S RC F」。その後の表彰台は逃すも、着実にポイントを重ね、前半戦を3位で折り返すことに。シリーズ優勝を射程圏内にとらえ、チームやファンの期待はさらに膨らんだ。

後半戦

重量ハンディの壁に阻まれるも、最終戦で来季への希望をつなぐ

開幕戦以降、スーパーGT特有の重量ハンディに苦戦を強いられた「Keeper TOM'S RC F」。思うようにポイントが加算できず、最終戦の前に優勝の可能性が消滅する悔しい結果に。それでも最終戦は意地を見せて優勝。来季へとつながる勝利で、有終の美を飾った。



開幕戦以降、スーパーGT特有の重量ハンディに苦戦を強いられた「Keeper TOM'S RC F」。思うようにポイントが加算できず、最終戦の前に優勝の可能性が消滅する悔しい結果に。それでも最終戦は意地を見せて優勝。来季へとつながる勝利で、有終の美を飾った。

【第5戦、第6戦】
地道にポイントを重ね、残り2戦に望みをかける

後半戦初戦となる鈴鹿大会は、計1000kmにも及ぶシリーズきつての長丁場レース。予選1を平川、予選2をカルダレリがアタックし、予選を6位で通過ポイント獲得に向けて、好ポジションから決勝に臨むことになった。しかし、小雨が降る中で迎えた決勝では思わぬ事態が起こる。31周目にデグナーカーブで雨水に乗ってしまいコースオフ。トップから周回遅れとなる。それでも最後まで、執念の走行を見せ、8位まで順位をあげてフィニッシュ。ランキングは5位に下がったものの、4ポイントを獲得して優勝戦線に踏みとどまった。

気温25℃、路面温度33℃という残暑の中で行われた第6戦は、宮城県仙台市の郊外に位置するスポーツランドSUGOで開催。予選を4位で通過し、開幕戦以来の表彰台も狙える好ポジションを獲得。勝負所を探りながら好順位をキープするなど順調なレース展開を見せていたが、65周目に痛恨のドライブレ

キングも7位に後退。それでも何とか2ポイントを加算。残り2戦に優勝への一線の見込みが託された。

【第7戦、最終戦】
意地を見せた最終戦優勝で最後を締めくくる

何としても表彰台を獲得する。優勝への絶対条件を掲げて臨んだ。決意の第7戦。会場となるオートポリスのサーキットコンディションは気温12℃、路面温度25℃。各チームとも時間をかけてタイヤを温めながらコース状況を確認する慎重なスタートで予選1が幕を開けた。上位進出に向け、何としても好ポジションをキープしたい中、カルダレリ選手がハンドルを握る。しかし想像以上にタイムが伸びず、予選2進出の条件である上位8位を逃す結果に。15位と後方スタートで臨んだ決勝レースでは荒天の中、懸命に順位を上げるも12位止まり。健闘もむなしく、事実上、今シリーズのチャンピオンの芽が絶たれた。

優勝は逃したものの、最後まで意地を見せてほしい。そんなファンに頼みに応えるため、栃木・ツインリンクもてぎでのシリーズ最終戦に臨んだ。集大成となる一戦で見事な走りを見せた。荒天でスタートした予選1は5位に終わるも、続く予選2でポールポジションを獲得。開幕戦以来の表彰台に、ファンの期待も膨らむ。そして迎えた決勝。最後まで一進一退の攻防が続く展開の中、見事1位で53週を走りきる。シリーズランキングは5位で幕を閉じたが、来季につながる走りを最後に見せてくれた。

レース	順位	ポイント
第1戦 岡山国際サーキット	優勝	20P
第2戦 富士スピードウェイ	6位	5P
第3戦 チャーン・インターナショナル・サーキット	6位	5P
第4戦 富士スピードウェイ	12位	0P
第5戦 鈴鹿サーキット	8位	4P
第6戦 スポーツランドSUGO	9位	2P
第7戦 オートポリス	12位	0P
第8戦 ツインリンクもてぎ	優勝	20P
年間ランキング	ドライバーランキング5位	総合ポイント 56P



第19回名古屋モーターショー 新型レクサスにキーパーコーティングを施工!

11/20(金)~11/23(月・祝)までの4日間、ポートメッセなごやで行われた「第19回名古屋モーターショー」。国内外46ブランドが出展、最新の市販車やコンセプトカーをはじめ、スーパーカーや高級スポーツカーも登場し、会場は大盛況!開催前日には、Keeperのスタッフが突撃し、レクサスの新型モデルにダイヤモンドキーパーを施工しました。ひとときワカピカに輝くレクサスは、多くの注目を浴びました!



レクサスは3つの新型モデルが登場
 ①LS200T(リニクチャタニウム)
 ②LX570h(リニクチャタニウム)
 ③RX450h(グラファイトブラック)

第62回マカオグランプリ 世界の舞台で力不足を実感

11/20(金)~11/22(日) 第62回マカオグランプリ出場。Keeper TOM'Sとして昨年に続き2度目の挑戦は、昨年度初出場ながら3位表彰台を獲得し、全日本F3チャンピオンも獲得したニック・キャッシューと、昨年デビューイヤーで全日本F3選手権を2位、同じく初出場のマカオGPも9位に入った山下健太の布陣で挑んだ。予選では、ヨーロッパ勢の勢いに押され、決勝レースを15番手と17番手でスタート。1周目にアクシデントが発生、赤旗中断となってしまうセイフティーカースタートになったのは3周回後。再スタート後に両ドライバーは好バトルを展開するものの7周目に山下がミスをした時にキャッシューがパス。最終的にキャッシュー12位、山下15位という結果となった。



ニック・キャッシュー 山下健太

【開幕戦】開幕戦を勝利で飾り、シリーズ優勝に向けて好発進

今年もスーパーGT2015に参戦した「Keeper TOM'S RC F」。参戦4年目のアンドレア・カルダレリと、初のレギュラードライバーを務める平川亮のコンビで悲願のシリーズ優勝を狙う。

開幕戦の舞台は岡山国際サーキット。今後の行方を占う上でも非常に重要な一戦だ。そんな重圧のかかる開幕戦で大仕事をやってのけたのが、シリーズ初参戦の平川。予選でコースレコード(1分19秒008)を記録し、ポールポジションを獲得。新人らしからぬ度胸と大舞台での勝負強さを発揮し、チームを勢いづけるこれ以上ない最高のスタートとなった。

続く決勝レースでも「Keeper TOM'S RC F」は躍進する予選で大活躍を見せた平川に負けじと、今度はエースドライバー・カルダレリの差を大きく広げるなど終始レースを牽引。良い流れで平川へとハンドルをつないだ。そして後半。ここでも平川が見せ場を作る。スリッピな路面に苦戦するも、最終的には2位と42秒差をつけてチェッカーを受けた。弱冠21歳にして岡山国際サーキットスーパーGTコースレコードを樹立してのポールポジション獲得、スーパーGTドライバードビューでの優勝と鮮烈デビューを果たした平川。2年連続で開幕戦を優勝で飾ったチームにこの日、新たなヒーローが誕生した。

【第2戦、第4戦】重量ハンディに苦戦するも、シリーズ3位で後半戦へ

開幕戦を見事優勝で飾った「Keeper TOM'S RC F」。続く第2戦(富士スピードウェイ)ではGT500クラス最重量となる40kgのウェイトハンディが大きく影響し、まさかの予選14位という結果に。それでも決勝レースでは粘りの走行を見せ、最終的には6位フィニッシュ。大勝負に出ず、確実にポイントを狙う作戦によって、開幕戦に続きランキングトップを維持した。

第3戦はシリーズ唯一の海外開催。新たに気持ちを入れ替えて臨むには絶好の一戦。しかし、サーキットは気温36℃、路面温度62℃という過酷なコンディション。上位進出には、ドライバーの体力やタイヤの摩耗、ピットインのタイミングなどチームワークが重要な鍵となる。予選ではあえてタイムアタックを遅らせてタイヤ摩耗を軽減。6位で決勝進出を果たした。続く決勝では重量ハンディを背負いながらも最後まで6位をキープ。着実にポイントを積み重ねた。

開幕から3戦を終え、ランキング首位に立った「Keeper TOM'S RC F」。しかし徐々に増す重量ハンディの影響が、第4戦(富士スピードウェイ)では予選・決勝ともに12位と振るわず、シリーズランキングも首位から陥落。それでもトップとはわずか8ポイント差。後半戦での巻き返しを誓った。